

銀漢亭日録

伊藤伊那男

23日（金）

▼昨日、氣仙沼の和人さんから秋刀魚到来。そのうまさに家族が感激したと。私は昼に秋刀魚二本。頭も尻尾も食べる。彗星の電子化手続きなど。十九時、発行所にて「火の会」十人。あと「魚勝」で小酌。北浦正弘氏の「季語を観る」拌受。写真をふんだんに使った労作！

10月13日（火）▼昨夜の酒残る。農家の野菜買いに散歩。十五時、神保町郵便局に麦さんと落合い、振り込み用紙の印字依頼。振込明細の電子化手続きなど。十九時、発行所にて「火の会」十人。あと「魚勝」で小酌。北浦正弘氏の「季語を観る」拌受。写真をふんだんに使った労作！

14日（水）▼遠出の散歩。泊江方面、一万歩超。農家にも寄る。白菜のつまみ菜をベーコンと煮る。ピーマン炒め。焼き茄子十本ほど仕込み。

17日（土）▼新潟、若井さんから自家製の新米到来。皆川文弘さんから今年も富山のチューリップの球根到来。十五時、発行所。「纏句会」七人。欠席投句七人の計十四人。

20日（火）▼同人集選句選評。会員集選句選評終了。月末、旅の予定あり、かなり頑張る。角川「俳句」新年号の原稿、手違もあり、半分書き換え。やれやれ……。農家の野菜買いに。あと、祖師ヶ谷大蔵のオオゼキに買い物物。

22日（木）▼十時半、京成佐倉駅。伊那北会。千葉在住の同期、北原泰明君が、車で来てくれたので、千葉氏終焉の地、本佐倉城跡へ乗せてもらう。後、佐倉城址へ。私は先月に統いて二回目。十一万石の大城。城下の武家屋敷三軒、旧城主堀田邸などを巡る。船橋に出て酒蔵「きらく」。牡蠣、白子、鮫肝、秋刀魚、鰯。鰯フライ、煮込み……と魚がうまい。店の方から、「よくお飲みになら方々ですね！」と。で、そのあともう一軒。ホッピー！。

24日（土）▼春耕賞応募三千八編あり、選考し、投函。夜、杏一家、鮎ちゃん来て、宮澤の還暦を祝う会。祝い。京都から来た松茸あり、スキヤキで祝う。

25日（日）▼年会費振り込み用紙（印字済）を発行所に届け、十七時、飯田橋の角川書店会議室にて「俳句」誌の合評鼎談。高柳克弘、堀田季何さん。二人共私の娘くらいの年代。終わって帰宅すると、宮澤の還暦誕生日の前夜祭として近所の仲間三家族ほどが祝いに駆けつけており、二十人位の宴会に。ドンペリも到来しており、人々にいただく。

26日（月）▼五時前起床。朝焼けが見事。七時過ぎの新幹線にて九州に向かう。井蛙さんと同行。小倉駅で前泊の松原、四国からの武田氏と合流。日田彦山線で香春駅下車。香春神社参拝。銅山の車の迎え。造り酒屋に寄つてもらい、酒買う。ホテルは標高六百八十米の山中。景色佳し。夕食佳し。温泉佳し。

27日（火）▼八時出発。英彦山神社奉幣殿から登拝。下宮、中宮を経て上宮。この高さになると紅葉が鮮やか。南岳は一九九メートル。ここからの眺望絶景。日向の山脈も一望。下りは恐ろしい程の急降下でヘトヘト。十四時下山。六時間の登山。バスにて添田駅。日田彦山線は災害でここまで廃線。小倉経由で宇佐駅。レンタカーを借りて国東半島。「ホテルベイグランド国東」着、十九時。フロントで食事処を聞き、タクシーで「海六呼（うろこ）」。

刺身類佳し。太刀魚の塩焼き絶品。その他飽食。亭主が宿まで車で送つて下さる。

28日（水）▼六時温泉、七時出発。富貴寺。建物が国宝。弥陀三尊も美しく、中尊寺の光堂を思わせる。熊野磨崖仏は長い石段。昨日の登山の疲れあり、太腿が痛い。不動尊は温顔。大日如来と二像。杵築城に寄り、宇佐神宮へ。広大な神域。昼食は团子汁。レンタカーを返し、十六時前ソニック号で小倉。こだまに乗り継ぎ、新山口駅。バスにて萩へ。萩着十九時半。食事処を探すが、淋しい町。「ぼてこ」という魚料理の店を見つける。「ぼてこ」と呼ぶ底魚系の活造り二種。鮑バター焼きその他地元の酒。あらで作つて貰つた味噌汁がうまい！二十一時過ぎまで。もう一軒と町を相当歩くが、全く無く、ひつそりと寂静まつている。どここの町にもあるラーメン屋なども皆無。ようやく東萩駅前のフランチャイズの居酒屋を見つけて小酌。

29日（木）▼八時四十五分から貸切タクシ。松下村塾、松陰生家跡、毛利家菩提寺の東光寺、武家屋敷街、萩城（指月城）を巡る。昼、「がんこ蕎麦」で打ち上げ。十三時すぎのバスにて新山口。新幹線。大阪で乗り換えあり、武田氏と別れ、駅構内の店で串揚げ、タコ焼きなどでビール、チューハイ。井蛙さんが、京都で降りましよう、と言う。新幹線京都で下車。駅構内の「松葉」で私はおろし蕎麦と酒。今度は名古屋で降りましょう、というので新幹線名古屋で下車。私は食べないが、井蛙さんはホームのきしめんを食べている。ともかく二十二時半くらいに帰宅。

30日（金）▼「あ・ん・ど・うクリニック」。「春耕」ネット句会選句。明日の「夕焼け酒場」での「銀漢亭の日」の料理の下ごしらえ。

31日（土）▼十四時、谷中の「夕焼け酒場」に入り、粕汁の仕込みほか。清人さんより、鮪ヅケ、生牡蠣など豪華な食材入る。十六時半、開店。二十五名ほどに成る。数々の差し入れ。人々の顔合わせの方々も。「焼」「酒」「場」の詠み込みの句会も。二十二時、お開き。満月！帰宅すると、莉子の友達四人泊まり。近所の二家族も食事会に来ている。

11月1日（日）▼かなりの二日酔い……。ああ、人々やつてしまつた。銀漢賞、星雲賞の応募九十四編あり、終日選考。

2日（月）▼三時起床。銀漢賞選考。十時半、幕張駅。伊那北同期で千葉在住の北原泰明車で迎えてくれ、笠森觀音、久留里城を巡る。泰明家に寄り、ワインなど駆走になる。十七時過ぎ、船橋の酒蔵「きらく」。牡蠣酢、鮫肝、秋刀魚刺身その他で酒盛り。ユーを沢山作る。

4日（水）▼快晴。人々、農家の野菜。春菊がいい。カリフラワーもいい。十周年記念の『季語別俳句集』の校正。なかなかの作業。ここまで纏めた戸矢一斗さん他のご苦勞は只事でなし。十七時、歯科定期検査。

5日（木）▼午前中例句集の点検。午後愛宕下の藤井公認会計士事務所。（銀漢賞の打合せ。五時新宿西口「渡邊」。オリックス時代の高木氏と一献。お互い酒量が減つた。